

シーニックバイウエイルート提案の応募結果

1. 概要

シーニックバイウエイ北海道推進協議会では、これまでにシーニックバイウエイルートとして13ルートを指定、候補ルートとして2ルートを登録しています。

新たに「知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウエイ」の1ルートについて提案がありました。

2. 提案のあったルート

○シーニックバイウエイ候補ルート（1ルート）

ルート名称	代表者名	代表者の所属	構成 団体数	関係市 町村数
知床ねむろ・北太平洋 シーニックバイウエイ	えんどう じゅういち 遠藤 修一	大地みらい信用金庫	24	8

ルート審査委員会の審査結果

令和元年7月27日

ルート審査委員会

(1) シーニックバイウェイ候補ルート（知床ねむろ・北太平洋シーニックハイウェイ）

表1-1 【審査結果】

視 点	優れた景観資源の有無および 地域資源の優位性について					景観及び地域資源について	推 薦 可 否
	委員	景観	自然	文化	歴史		
A	○	○	-	-	-	①「生成り」の大景観（光景）が四季を通じて、身近に存在し、日本では稀な時空を体感可能である。ただし、この稀な大景観を「守り・育て」、世界に評価され続けるブランド価値にする、戦略的で入念な努力が不可欠。 ②海洋、湿原、牧場、原野など、稀有な資源を五感で体感することができる「フットパス、ロングトレイル」などの資源活用活動が少しずつ芽生えてきていることを注視したい。	○
B	○	○	○	-	○	①景観資源は群を抜いており、グリーンツーリズムなどのようにそのままツーリズムに直結する景観資源であり、価値が高い。 ②文化・レクリエーションも、開拓以来の文化やそれをはるかに凌駕するオホーツク文化の存在など素材は魅力的である。 ③総じて、素材・資源をまだ活用しきれていないという印象。	○
C	○	○	○	○	○	①このルートほど「日本離れした独特な景観」という言葉が似つかわしい地域は無いと思われるほど、世界と比較しても優れた景観資源で、極めて高い優位性が確認される。	○
D	○	○	○	○	-	①歴史、文化、産業遺産や食といった資源の活用とPRが更に必要と思われる。 ②観光については、豊富な体験メニューの周知が必要であり、情報発信の方法、告知の仕方などに工夫が必要。	○
E	○	○	-	○	○	①羅臼町から、野付半島、根室半島、厚岸にいたる海岸景観は他に例を見ないもので、大変貴重な景観資源であり、中標津に代表される雄大な内陸部の景観も他にはない優位性がある。 ②多様なフットパス、ロングトレイルルートはレクリエーションの観点から優れたものと考えられる。	○

表1-2 【付帯意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs と結び付けた活動を進めるとともに、公・共・民の絶え間ない話し合いと合意形成が重要であり、そして表面上の同意をさらに深め、地域合意の現実化を期待。 ・長大・広大なルートであることから、「サブ・ルート」、「サブ・リージョン」を意識し、実装化を進め、「見えるルート」への歩みを期待。 ・2次・3次交通への配慮・工夫が不足。道東エリアで進めている観光MaaSの取組との連携・協働について検討することを提案。 ・景観については申し分なし、観光空間づくりは現在の体験メニューの磨き上げと独自性を訴求したツアー造成が望まれる。 ・地域の魅力向上の取り組みについては、観光協会だけではなく、地域住民等と行政の部門とも一体となって活動を進めることを期待。 ・歴史・文化・産業・食を組み合わせたレクリエーションの創造に期待。 ・北方領土の拠点という他地域にはない特性は今後とも重要性を増してくると思われるので、この点からも魅力的な地域づくりが望まれる。
--

令和元年9月20日
シーニックバイウェイ北海道推進協議会

シーニックバイウェイ候補ルートの登録について

○シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針に基づき、シーニックバイウェイ北海道実施要綱第18条第一項及び第二項の規定により、次のとおりシーニックバイウェイ候補ルートの登録を行う。

ル ー ト 名：知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイ
関係市町村：羅臼町、標津町、中標津町、別海町、根室市、浜中町、厚岸町、釧路町（8市町村）
提 案 者：知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイルート運営代表者会議

なお、上記登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

■シーニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シーニックバイウェイについて理解を深めるとともに、引き続き、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化を図ること。

また、各ルートで共有化された理念・目標・活動指針の達成に向けて、各地・各種の人や地域資源に関するマネジメント方針を明確化し、その方針に基づき、各ルート活動団体の運営体制の強化や、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの取り組みを引き続き進めること。

さらに、ルート活動団体が中心となり、地域住民、各種団体、行政、地域産業など様々な主体を含めた幅広い連携・協働のあり方を検討し、それらの主体との連携・協働に基づく取組を推進していくこと。

◆知床ねむろ・北太平洋シーニックバイウェイに対する意見

このルートほど「日本離れした独特な景観」という言葉が似つかわしい地域は無いと思われるほど、世界と比較しても優れた景観資源で、群を抜いている。グリーンツーリズムなどのように、そのままツーリズムに直結する景観資源であり、極めて高い優位性がある。

なお、ルートエリアが長大かつ広大であることから、「サブ・ルート」、「サブ・リージョン」を意識した実装化を進めることにより、「見えるルート」への歩みを進めることを期待する。また、地域の魅力向上に向けた取り組みについては、観光協会だけではなく、地域住民等や行政の部門と一体となって活動を進めることが必要である。

さらに、活動の推進にあたっては、「SDGs と結び付けた活動」、「観光M a a S の取組との連携・協働」、「歴史・文化・産業・食を組み合わせたレクリエーションの創造」、「現在の体験メニューの磨き上げと独自性を訴求したツアー造成」などをテーマとし、ルート活動としての独自・新規の取り組みを進め、極めて高い優位性のある景観資源・地域資源をさらに磨きをかけ、魅力的な地域づくりをさらに進めることが望まれる。